

## 2. 交通の発達

### (1) 軽便鉄道

模型機関車のような軽便鉄道が、今から78年ほど前の大正4年から昭和6年までの12年間、川俣から掛田の間を走っていました。

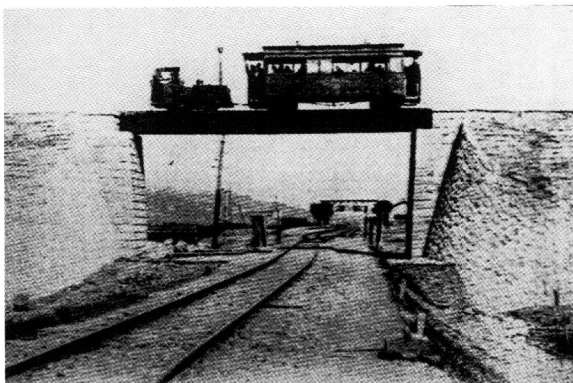
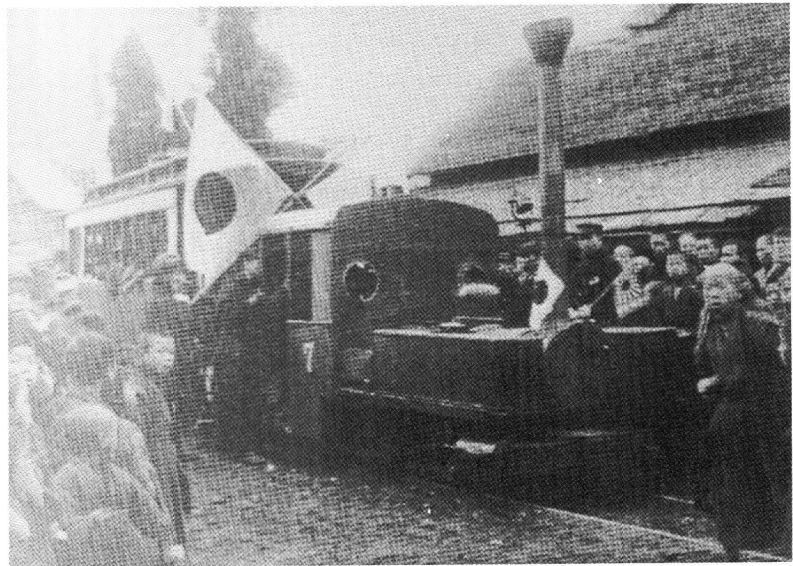
線路はほぼ今の国道に沿っていて、駅は、岩代月館（今の月見橋の近く）と下手渡にあり、ここでは貨物をあつかっていました。停車場は御代田と館の腰にあり、無人駅でした。

走る回数は、午前二往復、午後二往復。

経営者は、伊達町に本社をおいた信達軌道株式会社であり、福島から伊達を通して湯野へ行くもの、伊達、保原、桑折か梁川へ行くもの、掛田、月館、川俣へ行くものと、大きく三つの線路をもっていました。スピードがあまりなく、足の速い人はかん単に追いつくことができ、よくとび乗ったそうです。

#### 〈軽便列車の初乗り風景〉

多くの人々が見物にきました。



#### 〈東北線との立体交差〉

長岡－湯野間では東北線とは立体交差でした。この写真は軽便列車のすがたがよく表れています。

